

本年度海苔共販に関する基本方針について

昨今の海苔は「とれすぎた六〇億枚か、平年作の六〇億枚か」と論議を呼び、その対策が云々されたが、今日の段階では海苔生産は二年連続の六〇億枚、しかもこれは今後の平年作と考えられるに至り、流通面では従来の売手市場から買手市場へ移行しつつあり、このままでは米真珠同様の憂き目にあつたおそれがある。

去る八月十三日付にて「今後の海苔産殖業に対する指導について」水産庁長官の通達が出されたのも、こうした需給動向の基調に大きな変化が生じたことによるもので、消費の増大をはかることは勿論必要であるが、生産者としては生産、販売に充分なる配慮を以て対処すべきであると指導方針が打ち出されたことである。

運送の内容は個々には従来から指摘されてきた事項要約すれば、

- 生産性の向上を漁場への適正な投資及び漁場の適正な行使と製品の品質向上によつてはかること。
- 経営規模の適正化、生産加工の合理化を進めること。
- 現行共販体制の強化及び需給調整販売の体制を整備すると共に、個別検査を厳重にし、製品の規格の統一をはかること。
- 経営規模の適正化、生産加工の合理化を進めること。
- 品質向上によつてはかること。
- 現行共販体制の強化及び需給調整販売の体制を整備すると共に、個別検査を厳重にし、製品の規格の統一をはかること。
- 経営規模の適正化、生産加工の合理化を進めること。

◎共販体制の整備、強化

一、生産期中共販について

現行共販実施に必要な次の諸活動の円滑な実施と改善をはかり、全国各共販体間の有機的な連携を促進し、共販システムの統一をはかる。

(一) 手形取引引渡率の設定

年形買入高五千万円以上(過去三年平均)の指定商(入札参加商社)全国で百二十社、当プロックで約七十社、本県で三十七社を対象に、手形取引の限度を設定し、計画的な買入れを強化し共販の円滑な運営と価格の安定をはかる。具体的には対象指定商の信用度、実績等を勘案して、先づ全国枠を設け、プロック(県日本、瀬戸内、九州)に按分する。なおプロックの作柄の推移によつてその種の移動調整をする。またそのコントロール業務は全漁連が行う。

(二) 全漁連の調整保管事業

該事業の効果的な利用をはかる。この調整保管とは、対象指定商(全国で約三十五社、本県関係

昭和四十六年八月十三日付
水産庁長官通達

のり養殖業に対する指導について

供給過剰の売手市場の増大は、生産増大を図り得たのり需給動向の基調に大きな変化を生ずるものであり、もし、このまま推移するならば、供給過剰により、のり価格が急激に下落し、生産者の利益が減少するおそれがある。今後ののり養殖業の発展に当たっては、このような動向を配慮して対処する必要がある。

一、生産の急激な増大傾向に、のり価格の急激な下落を防止し、生産者の利益を確保すること。

二、品質の向上と生産の安定を図るため、規格の防止等漁場利用の適正化について、強力な指導を進めるとともに、漁期末における低品質品を回収販売し、価格低下に拍車をかけることを防ぐため、摘採期の自主的早期切上

三、販売ルートへの拡大

生産増大に処して、消費の拡大を伴う販売ルートを開発するため前年度より消費者団体(漁生

わが国ののり養殖生産量は三十五年度に三十億枚に達し、その後、かなりの豊凶変動を繰り返してきたが、四十四年度におよび四十五年度には二年連続して五十五億枚を越える豊作となった。

しかし、この連続豊作は近年ののり養殖技術の進歩によるものが多いものとみられ、この高い生産水準が今後の平年作水準として期待される見られる。

このことはこれまでの

項に特に留意のうえ、のり養殖業に対する指導に万全を期せられたく通達する。

一、生産の急激な増大傾向に、のり価格の急激な下落を防止し、生産者の利益を確保すること。

二、品質の向上と生産の安定を図るため、規格の防止等漁場利用の適正化について、強力な指導を進めるとともに、漁期末における低品質品を回収販売し、価格低下に拍車をかけることを防ぐため、摘採期の自主的早期切上

三、販売ルートへの拡大

生産増大に処して、消費の拡大を伴う販売ルートを開発するため前年度より消費者団体(漁生

◎生産指導について

今後海苔の生産は、その商品性、採算性を重視して従来の「増産努力」から「品質向上と経営の合理化」に重点を移すべきである。当会としては、この需給調整を厳格に指導する必要がある。

一、委託種綱について

委託先は例年どおりであるが、本年度は人件費、資材費等の騰高による上乗りの補付は若干値上りが見込まれている。

二、海苔系状況

本年は当会のりセンターで増産した約六二万個で現在順調に成育しており、約五八万個割当てが決定、残りは予備として確保しております。

三、添加物について

最近食品の添加物は一般の公害問題と同じよう消費者は非常に関心をもち、同時に、衛生試験研究機関も常に監視の目をゆるめない状況で、指定商も添加物等が混入しているとの損害賠償を契約条件にするとの強硬な態度であるが、若し添加物が検出された場合は、単にそれのみで止まり、生産者の受ける被害は莫大なものとなることとが予測されている。

去る九月六日付にて、水産庁漁政部長より「流

◎需給調整販売について

海苔の大型生産時代を迎えた今日、需給関係から生ずる価格の低落、指定商の資金不足による価格に与える影響及びリスクの増大を防ぎ適正価格の実現と流通の合理化を促進するため、前年度よりとりあげられ、本年度一億枚が試験的に実施

された。これは共販の基本問題にも係わることであり、本年度はその実施をはかりたい。

需給調整販売とは一口に云って生産期中に価格が急激に下落したとき、火入れ保管し、市況をみながら全額規模で周年販売する方法で、それによって

公害対策講習会

和歌山と舞鶴で開催

来る十一月五日和歌川、この講習会においては、同日舞鶴において全漁連、本県は近畿、山陰の両プロックによる「公害対策講習会」に所属し、内海と内海協会は開催されることになり、協会は近畿プロックに、但馬海区漁協は山陰プロックに、特に関係は生産者個々の段階で行うべきもので、検査の時点でやれるものではない、撲別が悪いと指定商が一度は買付てはくれないことを覚悟すべきである。

なお、本年は当会検査員を三名増員し八名にて万全を敷いた。

以上、基本的な事項の羅列に終りましたが、更に詳細については、底底させなければならないので、本年は必要があるので、本年は底底に生産者の協議会をもち、現状の認識と、その対策について遺憾なきを期する考えであり、詳細は追って県漁連より通知される。

(内海漁連)

YANMAR DIESEL ENGINE

漁業経営の合理化 近代化を推進!

船舶主機用 3~1600馬力
船舶補機用 2~2000馬力

2M10形 10馬力
YS12形 4.3馬力

ヤンマーディーゼル株式会社 (本社) 大阪市北区東淀町6-2番地

北方領土返還に強い訴え

「黄金の島」は日本固有の領土だ

— 全国漁協婦人部大会 —

全国津々浦々の漁協婦人部代表およそ三五〇名が去る九月九日北海道根室市に集まり、第十三回全国漁協婦人部大会が開催された。本大会は根室地方における最大の関心事である北方領土返還運動に對して、その当事者である漁業者はもとより、関係者がこの地で声を大にして取組んでいるということとを、全国運動として強く世論に訴えようとする漁協連及び全漁連が主催したものである。

大会は終始熱っぽい雰囲気の中で進められ、大会宣言、北方領土返還運動速進報告に続き、道漁協連大阪会長より実情報告が行なわれた。

それによると終戦直前の二十二年七月、獨逸軍が色丹島、國後島、択捉島の居住者一六、〇〇〇余人は、ソ連に引き渡され、高橋生にハマチの標識放流調査に思われず、その状況はハマチ再捕地と見られる。ハマチ再捕地は、おぼろげに八尾、成ヶ島沖で一尾再捕されたが、大阪府が谷川沖で放流したものが富島沖で一尾、釜ヶ崎沖で一尾、和歌山県で放流したハマチは播磨灘が日ノ御崎北側(紀伊水道)で放流したものが福良湾の動したのもありますが、今までの結果ではやはり播磨灘で分散していったようである。

漁船海難遺児を励ます運動 第三次募金運動展開

昭和四十四年度より展開されている「漁船海難遺児」を励ます運動は、漁協連の資金協力が原動力となつて、第二年度を迎え、四十五年十月には財団法人漁船海難遺児育英会が設立され、早稲小中学生に對し奨学金が開始され、高校生に對しは、報告の協力方について御礼も充分注意して報告いただきたく重ねてお願いいたします。

中学生 一八名(二三三) 高校生 八名(六一一) 合計 五一名(三四八八)

英会の本県で採用された奨学生の内訳は左のとおりです。(括弧内は全国)

小学生 二五名(一六四四) 高校生 二名(一四)

この募金は第三年度目の各都道府県ごとの募金目標額を定め(本県は一六二万円)その達成に努めるとし、第一・三・五年度は目標額を達成し、第二・四年度は目標額に近づけることとなつて、第一・二年度の目標達成に努める。

一般大口募金の推進、育英会と共同で、指定寄付対象の一般大口募金(水産、流通、石油、造船、造産、漁獲、食品、その他)を達成し、達成を推進する。なお、(白)については、募金趣意書を作成し、個別折衝を行ない、その達成を促す。

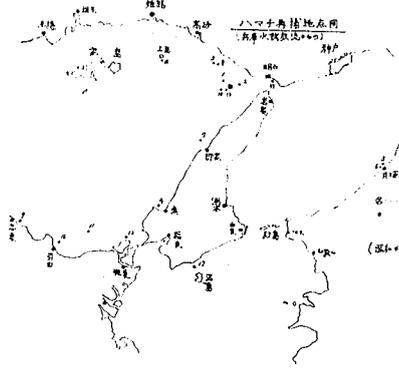
(白)業種別漁協第一次募金の推進
主要業種別中央団体(全日本漁協連、日産、個別折衝を行ない、その達成を促す。

(黒)業種別漁協第二次募金の推進
主要業種別中央団体(全日本漁協連、日産、個別折衝を行ない、その達成を促す。

ハマチ 標識放流の再捕状況

放流後二ヶ月間の状況を中間報告としてお知らせします。

七月三十一日タカラ瀬、成ヶ島沖で一尾再捕された。大阪府が谷川沖で放流したものが富島沖で一尾、釜ヶ崎沖で一尾、和歌山県で放流したハマチは播磨灘が日ノ御崎北側(紀伊水道)で放流したものが福良湾の動したのもありますが、今までの結果ではやはり播磨灘で分散していったようである。



ハマチ再捕報告表

本場で標識放流を行なったもの(7月31日実施)

再捕月日	再捕場所	漁具	再捕日数
昭和46年8月2日	タカラ瀬西約1,000m	刺延	3日
8月4日	東約600m	刺延	5
8月17日	ハヤマ瀬北航路10番	小型中着	18
8月18日	津井港口東	網	19
8月20日	貝塚市脇ノ浜地先	網	19
8月21日	貝塚港口	網	21
8月26日	都家沖北西約1km	刺底	13
8月26日	二見沖約4km	小型中着	27
8月23日	志度町小田港	網	24
8月27日	タカラ瀬西約500m	ハマチ五智網	28
8月8日	徳島県北灘折部沖約7km	巻	9
9月11日	鳴門口、島田高瀬ノ肩地先	本	43
9月15日	タカラ瀬西約200m	ハマチ五智網	47
9月17日	上高瀬オゴノ瀬	本	49
9月17日	明石市役所沖200m	一五	49
9月17日	引田町地先松島東側	本	49
9月27日	南淡町土生	刺	59

マリンスノウ

潜水球で海水にもぐってみると、陸上での降雪に似たような光の影がみられる。この海の雪に似たようなものをマリンスノウ(海雪)といっている。昭和33年にフランス海軍の深海観測用の潜水艇「バスクーフ」による日本海溝の探検によって、マリンスノウは表面の浅い所から何1,000メートルも深海まで分布していることが確かめられた。写真によりその状況も明らかにされた。その形は場所、季節、深さなどにより変化することがあり、その量はプランクトンの多い海ほど多い。マリンスノウがどのようにして、できるのか、また消滅していくのかなどははっきりしたことは判明していない。

しかし珪藻などのプランクトンのうち、半死状態の細胞や死んだ細胞、さらに分解過程にある細胞などが、機械的にゆるく結合してできたものと考えられている。この多量に見られるマリンスノウもプランクトンネットでは、海水を濾してみてもほとんど採取することはできない。これは採取時に海水を濾す衝撃により、マリンスノウがたやすく粉砕され解体して、プランクトンネットの目を海水とともに通過してしまうためであると云われている。(通)

養魚の調餌と造粒は コウベヒラガのミートチッパーで

養魚用ミートチッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チッパーで給餌することもできます。

(御一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチッパーとプレート、ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8
TEL(代表神戸)(078)62-1527

Z-3型 待望の魚探機誕生

皆機の大漁を御約束する 小型から中型までの万能魚探
MODEL-Z-3 1A, B, C, D
二周波魚探も出来ます

海上電機株式会社
神戸営業所 神戸市東灘区 電話 294-7801

最高の性能と 最大の実績を誇る…

ゼニライト

あらゆる漁場にあわせてゼニライトは約40種類をそろえて 皆機の御用命をお待ちしております。 御問合せは各県漁連へどうぞ。

株式会社 銭屋アルミニウム製作所 浮城事業部
池田市東島田2丁目17番1号 TEL: 072(81)231-Telex: 5322-235
福岡 TEL: 095(26)653 Telex: 3524-34 東京 TEL: 03(53)3681
Tel: 252-2097 FAX: 01226271